

穂が出た後の籾をカメムシに吸われると斑点米になります。平成23年産米の2等米以下の半数以上がカメムシ類被害による着色粒(斑点米)による理由で等級が落ちています。斑点米被害をもたらすカメムシ類は今年も発生が多くなると予想されます。適切な防除で被害を抑えましょう。

営農 インフォメーション



EINOU information

出穂期前後の栽培管理について



カメムシ類に吸われた斑点米

カメムシの背くらべ



主な斑点米カメムシ類の大きさの比較です。小さいものでは籾くらいの大きさなので、水田の中ではよほど注意しないと見つけられません。

対策 その1

薬剤防除 → カメムシに効果の高い殺虫剤の散布。

◎ J A大阪北部管内で多く確認されたカメムシは全て飛翔種であるため水田全面に侵入してきます。薬剤散布は水田内の額縁だけでなく水田全面に散布しましょう。

出穂5~10日後に薬剤散布。発生が多い場合は2週間後に追加散布します。

【主な薬剤例】(下記のいずれかを使用しましょう)

- | | | |
|----------------|----------|--------------|
| スタークル粒剤または粉剤DL | 3kg/10a | 収穫7日前まで/3回以内 |
| スタークル豆つぶ | 250g/10a | 収穫7日前まで/3回以内 |

スタークル豆つぶの使い方



豆つぶだから撒きやすい。

手ですくい取り、投げ入れるだけ。簡単に思い通りに散布ができます。(ゴム手袋着用)

ひしゃくでは15m前後飛びます。大型圃場(30a以上)ではひしゃくを使用すると散布が省力化できます。



ひしゃく散布

対策 その2

畦畔・休耕田などの管理 → 地域全体での取組が重要です。

◎カメムシは畦畔や休耕田などのイネ科雑草の草むらで繁殖します。出穂2週間前までに草刈りを終わらせましょう。これ以降に草刈りをするとカメムシを水田内に追い込むので逆効果になります。

